

司法省日誌

九

明治七年七八



日本史籍協會編

司法省日誌
明治初期各省日誌集成

東京大学出版会

九

明治七年七・八月

司^し法^{ほう}省^{しょう}日^{にっ}誌^し九

明治初期各省日誌集成 第一期

昭和五十九年五月三十一日覆刻

編者 日本史籍協会

代表者 森谷秀亮

東京都三鷹市大沢二丁目十五番十六号

発行者 財団法人 東京大学出版会

代表者 田中英夫

一三三 東京都文京区本郷七丁目三番一号
振替東京六一五九九六四

電話(八一)八八一四

印刷・株式会社 平文社

本文用紙・王子製紙株式会社

クロス・望月株式会社

製函・株式会社 光陽紙器製作所

製本・矢嶋製本株式会社

39099

ISBN4-13-093909-2

資料は国立公文書館所蔵本による。

日本史籍協會編

司法省日誌

全二〇卷

A 5 判

平均四六〇頁

各価六〇〇〇円

明治初期各省日誌集成第一期

卷	年	代	刊行月	卷	年	代	刊行月
1	明治六年一・二月	58年	9月	11	明治七年二月	59年	7月
2	明治六年七・八月	10月		12	明治七年三月	8月	
3	明治六年八・九月	11月		13	明治七年索引	9月	
4	明治七年一月	12月		14	明治八年一月	10月	
5	明治七年二月	59年	1月	15	明治八年二・三月	11月	
6	明治七年三・四月	2月		16	明治八年四・九月	12月	
7	明治七年五月	3月		17	明治八年一〇・三月	60年	1月
8	明治七年六月	4月		18	明治九年一・二月	2月	
9	明治七年七・八月	5月		19	明治九年三月	3月	
10	明治七年九・一〇月	6月		20	明治九年四・五月	4月	

司法省日誌

九

目次

明治七年七月

第二百一十一號 (七月二日)	一
第二百一十二號 (七月三日)	二
第二百一十三號 (七月五日)	四
第二百一十四號 (七月八日)	六
第二百一十五號 (七月九日)	八
第二百一十六號 (七月十二日)	一〇
第二百一十七號 (七月十四日)	一二
第二百一十八號 (七月十七日)	一四
第二百一十九號 (七月二十日)	一六
第二百二十號 (七月二十三日)	一八
第二百二十一號 (七月二十五日)	二〇
第二百二十二號 (七月二十九日)	二二
第二百二十三號 (七月三十一日)	二四
明治七年八月	
第二百三十四號 (八月二日)	二六
第二百三十五號 (八月五日)	二八
第二百三十六號 (八月十日)	三〇

第二百三十七號 (八月十二日)	三二
第二百三十八號 (八月十七日)	三四
第二百三十九號 (八月二十二日)	三六
第二百四十號 (八月二十四日)	三八
第二百四十一號 (八月二十五日)	四〇
第二百四十二號 (八月二十五日)	四二
第二百四十三號 (八月二十八日)	四四
第二百四十四號 (八月三十一日)	四六

司法省日誌明治七年第百二十一號

○七月二日

〔第十三號布達〕 輪廓付

各裁判所 各府縣

本年當省第八號達之内第一項詮議之次第有之今般別紙之通改定候條此旨相達候事

〔別紙〕

處刑濟ノ者送籍中途ニ在リ及ヒ無籍無産ニシテ授産場ニ在リ或ハ鞠間中ニ於テ逃走スル者棒鎖一日ヲ科スル例ヲ改テ違式輕ヲ以テ論シ實斷ス

〔奈良縣へ達書〕

其縣ヨリ本年四月八日附ヲ以テ伺出相成候書中出稼券
 送籍狀等ニ偽印スル者云々改定律例第二百四十六條ニ
 依ル可シト及指令候所出稼券ハ無印鑑旅行不差支候ニ
 付テハ無之筈ニ候送籍狀ハ餘ノ文書ヲ以テ論スル事ニ
 候條此段更ニ及御達候也

○

新瀉縣ヨリ七年越後國蒲原郡堀溝村小川又四郎足柄裁

判所ヨリ同年相模國足柄上郡境村農相原新左衛門三重

縣ヨリ同月伊勢國三重郡小杉村農川崎助三郎磐前縣ヨリ

同月磐前國石川郡山白石村農笹島吉三郎山梨裁判所ヨリ

同月甲斐國巨摩郡古田村農保坂慶作名東縣ヨリ同月備前國

岡山商三宅初五郎埼玉裁判所ヨリ同年六月武藏國埼玉郡彌
勒村農秋山常吉等各處斷伺ニ新左衛門ハ持兇器強盜人
ヲ傷スル者又四郎ハ同上人ヲ殺ス者ヲ以テ論シ兩名共
斬罪助三郎ハ懲役終身ノ囚人逃走スル者吉三郎ハ人ヲ
謀殺スルニ傷シテ死セサル者ニ付二人共絞罪慶作ハ例
第百七十六條凡亂毆云々原謀者アレハ原謀者ヲ云々ト
アルニ依リ懲役終身初五郎ハ手足ヲ以テ人ヲ毆キ傷ヲ
成ス者ニ準シテ論シ同三十日常吉ハ過失ニテ人ヲ殺ス
者法ニ依リ金四圓收贖シテ家ニ給付ス等ノ指令アリ

〔甲第十一號布達〕

各 裁 判 所 長

今般別紙ノ通檢事局へ相達候條此旨可相心得候事

〔別紙〕

檢事局

各裁判所派出ノ檢官兼テ相達置候儀モ候所今後諸警察
上ニ渉ルノ公文ハ所長ヲ經ス直チニ往復致シ不苦候條
此旨可相達候事 但諸省使寮ニ往復スル者ハ本局ヲ經
由シ本省ニ可差出事

〔大分縣伺罪案〕
〔節錄〕
七年四月

豐後國大野郡倉波村農廣瀨國太郎妻チマ供 私儀六年
六月頃鼻頭ニ腫物ヲ發シ黴毒ナラン乎ト心痛罷在ル所
夫國太郎私ノ病性ヲ疎ミ候哉夫婦ノ情好モ稍薄クナリ
夜モ深更ニ及ハサレハ歸宅セサルニ付外ニ密婦アラシ

ト疑ヒ妒心ヲ生シ夫ノ命ニ從ハサルヨリ打擲セラレシ
事モ有之旁怨憤ノ餘リ不圖惡意ヲ起シ夫ヲ殺害シ他人
ノ花ト致ス間敷ク續テ己モ死ナント決心シ本年三月初
旬前段ノ如ク行ハント欲セシ所機會無之見合セ置キ同
月十五日モ夫ト爭論ノ末柱ニ縛シ付ラレ又モ打擲ニ逢
ヒ遺恨ニ堪ヘ難ク全ク密婦有之故如此殘忍ト一圖ニ存
込妒心燃ル如ク同十七日夜隙ヲ窺ヒ脇差ヲ以テ夫ノ咽
喉ヲ狙ヒ突立シ所仕損セシニ付此上ハ自殺セント驅出
スヲ引留メラレ終ニ取押ヘラレ候

指令

夫ヲ殺サント謀リ己ニ傷スル者改定律例第一百六十八條

夫ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ皆斬ニ處スル律ヲ改メ皆絞ト云ニ照シ

絞罪

チ
マ

〔同縣伺〕
七年六月二日

豐後國玖珠郡森村元卒相良要平井上宗助儀昨明治六年五月黨民へ隨行致シ候ニ付同年一月當縣下黨民暴動ノ節少判事有馬純雄出張ニテ判決相成リ候の例ニ依リ雜犯律違令重キ懲役四十日破廉恥甚ヲ以テ論シ除卒籍ニ斷決致シ置候所今般右有馬純雄出張ノ節除族致シ候ハ誤刑ノ趣ヲ以御貼斷ノ御達有之候間右兩人モ同シク貼斷致シ度此段相伺候也

指令

伺ノ通處斷ス可シ

〔新瀉縣伺〕
七年六月十九日

本年四月廿七日付ヲ以テ酒造犯則ノ者處置ノ儀ニ付伺
候御指令ニ造高ノ内ヲ分テ貸渡候者ハ其貸ス所ノ石數
ニ因テ免許料五倍ヲ科スヘシト有之右ハ清酒濁酒醬油
鑑札収與並収稅方法規則第一則第三節ニ記載有之免許
稅ノ五倍ヲ科スヘキ儀ニ候哉又ハ第五則第一節ニ記載
有之釀造稅ノ五倍ヲ科スヘキ儀ニ候哉更ニ相伺候也

指令

第五則第一節ニ照シ其貸渡シ高ノ釀造稅五倍ヲ科スヘ

キ事

同縣伺

七年六月
二十日

印紙ヲ貼用スヘキ諸証文ニ印紙ヲ貼セスシテ界紙ヲ用
ル者ハ規則第九條第四節相當セサル印紙ヲ貼用スル諸
証文ヲ渡ス者ハ三十圓以下ノ罰金可申付トアルニ擬シ
處罰致シ可然哉相伺候也

指令

伺ノ通

○

東京裁判所ヨリ

七年
五月

東京新富町商高梨榮助宮城縣士族
蟹江時巍陸中國閉伊郡津輕石村農山崎守人陸前國仙臺

無籍田中直三郎上野國邑樂郡傍余塚村農高坂與吉武藏
國入間郡須那村農宮澤榮吉大坂西笹町商橋本文太郎伊
勢國飯野郡櫛田村無籍星合勇之助越中國富山無籍松井
吉藏東京淺草雜業伊藤和三郎三重縣ヨリ月同伊賀國上野
商一口民三郎埼玉裁判所ヨリ月同武藏國埼玉郡菖蒲町綿
打職平澤末藏新方袋村農金子源七東京下谷無籍淺賀國
松神奈川裁判所ヨリ月同相模國鎌倉郡腰越村農榎本芳五
郎等各處斷伺ニ榮助時巍守人與吉榮吉文太郎勇之助吉
藏末藏國松芳五郎ハ持兇器強盜財ヲ得ル者直三郎ハ瞭
望二次ニ及フ者畏懼隨行二次ニ及フ者ノ權衡ヲ以テ同
上ノ本罪ヲ科シ民三郎ハ實貨ヲ偽造シ已ニ行使スル者

ニ付時族ノ上ハ除十三名共皆斬罪源七ハ例第二百十二條ヲ

以テ論シ懲役七年和三郎ハ強盜ヲ爲ント謀ルト雖モ途
ニアリ遷卒ノ巡行ヲ見テ逃去スル者情狀盜情顯跡アル
ヲ以テ論シ難キニ依リ不應重ニ問擬シ同七十日等ノ指
令アリ

(岐阜縣伺) 七年六月
十三日

蠶種製造取締規則第十五節曰免許印紙無之蠶種紙云々
雙方免許印紙料十倍ノ科料取立可申事蠶種原紙規則第
五條曰原紙流用ノ儀萬一違犯ノ者云々雙方共一枚ニ付
新貨五十錢宛ノ科料取立可申事右ノ通ニ有之候所假令
ハ甲無印紙蠶種紙又ハ原紙ヲ以乙へ賣却シ乙之ヲ買取

シテ丙ニ轉賣スル者有之候キハ甲丙ハ賣却買取一方ノ者ニ候ヘ共乙一人ハ賣買兩事相關スル者ニ付罰金各別ニ取上可申哉乍併同人同物ニテ罰ヲ重子候ハ不都合ニモ存候間賣買ノ内一方ノ罰金申付即一事ト見做シ可然候哉此段相伺候也

指令

○何月何日指令ト記ス
以下同シ

犯則ノ物品甲乙丙ト轉賣買スルキ乙ハ賣買兩事ニ關スルト雖モ一方ノ罰金申付ケ可然但其賣代金ヲ取上ルハ勿論ノ事

〔愛媛縣伺〕

七年六月二日

襟簿證印ノ儀ニ付犯則ノ者有之夫々罰則ニ照シ處分濟